

阿蘇

福岡県大野城市→小国町杖立  
甲斐美保さん

湯煙りがあがる谷間の温泉地  
路地裏のアトリエで手仕事にいそしむ日々

大切なのは人とのつながり 地元が好きな人が集まる場所に住んでみたくなるんです



ペーパー・スクリーン版画のカレンダー

甲斐さんと小国町との出会いは、平成12年に入学した九州ツーリズム大学。半年間、月に一度、小国に向かい、受講生をはじめ地域の人達と知り合いになれたことが定住するきっかけになったと言います。「卒業後、JICA(国際協力機構)の派遣で町をしばらく離れる人が、留守中に家を管理する人を探していると聞いて、小国町に住むことになりました。」その後、ツーリズム大学で出会った講師の紹介で大分県湯平温泉へ移り、知人が

ら紹介された杖立温泉へ移り住んだのが2年前のこと。「私にとって、田舎に住むことは大げさなことではありませんでした。土地の方言も無意識に使っていたり、地域の中に溶け込みやすいタイプみたいですね。人と交流すればいろんな話しが飛び込んで来るし、家も仕事も、誰かからの紹介ばかりです。」小国に来る前も、友人を訪ね歩いて、沖縄の小浜島や北海道にばかり滞在した経歴もあります。友人を



甲斐美保さん  
福岡県大野城市出身  
温泉街裏手の入り組んだ路地の一角が、甲斐美保さんの住まい兼アトリエ。共同トイレで風呂なしのアパートですが、共同温泉が歩いて100歩の場所にあるのが気に入っているとか。

通してその地域に受け入れられ、また、甲斐さん自身も自分出来る範囲で地域の役に立つことをすることを心がけています。杖立温泉の路地裏を活性化しようという地域おこしグループ「チーム背戸屋」にも参加。地域おこしの手伝いをするほか、仕事の合間を縫って旅館で仲居や店舗改装を引き受けることもあります。「杖立には、自分が生まれ育った町が好きな人が集まっています。そんな場所に住むのはとても居心地がいいし、地域の人達がかんばる姿を見てると応援したくなるんです。」杖立では、ペーパー・スクリーン版画や布やワイヤーを使った雑貨などを製作している甲斐さん。手作りの作品は、杖立のお店でしか販売していません。「一人なので大量には作れませんが、杖立に来て作品を見てくれることに意味があると思います。小国の人達との会話から生まれたものもありますからね。」4月にはゆっくり作品を見てもらえるアトリエも完成。杖立と人をつなぐ新しい拠点になってくれそうです。

移住コンシェルジュ／小国ツーリズム協会

小国ツーリズム協会

〒869-2501  
熊本県阿蘇郡小国町宮原1728  
TEL/FAX 0967-46-4440  
<http://tourism-oguni.com/>



件近くにはあります。

小国ツーリズム協会  
事務局長 高橋正之助  
定住希望者の要望に答えるため、「道の駅 ゆうステーション」内にUJターンの相談窓口を開設。移住希望者からの就職や住居探しの相談を受けています。平成10年の窓口設置から40組以上のUJターンの希望者を受け入れており、相談件数は年間で100



## 碧い海に浮かぶ緑の島々におだやかな気候と 新鮮な魚自然の恵を満喫する生活

方言で話す地元の人達 ぶつきらぼうだけど優しさが伝わってきます



「てくれたんです」と、何気ない出合いが心に残り、天草に生涯住む決意ができたといいます。

昨年7月から天草で暮らしはじめた河本さん。温暖な気候や海を臨む住まいも気に入っている様子です。「なによりも魚介類が新鮮で美味しい。いけすの魚が千円札で買えるんですからね。でも、戸惑ったのは魚の名前。カラカブなんて東京では売ってないし、フクは「ブッキン」と呼ぶんですよ。」田舎暮らしは、毎日発見があり、知らないことがまだまだあると笑います。

奥さまが東京で仕事があるため、現在は愛犬と二人暮らし。「でも、さびしい思いなんてしたことはありません。私には小学生から90歳のおばあちゃんまで、たくさんの方と住んでいますからね。」また移住者で結成した「外の風」の会長にも就任。地域との交流はもちろん、イターン・リターンを考えている人達へのアドバイスやお手伝いにも積極的に取り組んでいきたいと話してくれました。

東京ウオーターフロントのマンションから、天草の海を見渡す一軒家に越してきた河本さん。リタイア後は、夫婦二人で田舎暮らしをしたいと考え、岩手や静岡、徳島などに赴き、理想の場所を探していました。「鮮烈な印象を受けたのが、碧い海と豊かな緑の天草の景色、そして人々の優しさ。それが決め手になりました」と話されます。

天草を候補に考え出したのは、一昨年、新聞で熊本の「イターン・リターン」の広告を見てから。その後、上天草市役所や熊本県の担当者へ、電話や手紙でやり取りを続け、実際に天草へ足を運びました。その時、バス停で迷っていた河本さん夫婦に、高校生の男の子が「おっさん、おばあさんはどこに行くとか？」とはにかみながら話し掛けてくれたとか。「方言はぶつきらぼうに聞こえますが、心の底にある温かさを感じるんですね。また、物件探しは不動産屋に依頼したのですが、東京では考えられないほど丁寧に対応し



河本範孝さん  
東京都出身  
現在は一人暮らしですが、今年の夏には奥さまも上天草市へ定住。都内に住んでいた頃、ヨットやクルーザーで海を楽しんでいたことで、ティンギー(小型のボート)で天草の海をめぐるのが目下の夢。

## 天草／交流・居住モデル事業(平成20年2月)



干し物作り体験

県外の都市生活者を対象に、今後の交流・居住の取り組みの方向性を探る目的で、熊本の魅力、特色を活かしたテーマ性の高いプログラムによる長期滞在型のモニターツアーを、天草の御所浦地域と西海岸地域で実施しました。参加者は一週間の滞在中、体験民泊などを通じて、地域の生活に触れたことで天草の魅力を深く知ることができました。



球磨

福岡市→山江村扇形地区  
米倉治真さん

万江川のせせらぎがBGM！  
月に一度の山里暮らしが楽しみです

「今度いつ帰ってくる？」村人のひとごと、村の一員になれたような喜びを感じます



クラインガルテンほたるの荘

「部屋に居ながらにして、万江川のせせらぎと、素晴らしい景色が独り占めできるんですよ。下見に来たとき、この景色に一目ぼれ！ここで朝目覚めたら、幸せだろうなあと思いました」と山里暮らしのきっかけを話す米倉さん。それまでは、村の名前も知らなかったそうです。「クラインガルテンほたるの荘」の入居者募集の新聞記事を見て、「山江村」の名前に引きつけられたといいます。クラインガルテンは、都市で暮らす人が、自

然とふれあいながら地元の人々との交流家庭菜園などをしながら過ごす施設で、第二の生活拠点のこと。山江村では昨年3月に、村の施設として三棟が建てられました。福岡で仕事をしている米倉さんが、山江村に滞在できるのは月に三日ほど。敷地内にある畑で野菜作り、村のグリーン・ツーリズム協会のメンバーになり、イベントや行事に参加しています。秋は村の神社仏閣を巡る願掛けめぐり、冬はイノ

シンの解体作業見学。今年の一月は消防団の出初式を見るために福岡から帰ってきました。好奇心旺盛な米倉さんは、村の人たちに声をかけられると二つ返事で参加を決め、街の暮らしでは出来ない経験を満喫しています。もちろん、イベント後の酒席にも顔を出し、それまで苦手だった焼酎も美味しく飲めるようになったと話してくれました。

「主人も2人の息子も、山江村に来たことがないんです。田舎暮らしには関心がないみたい。私も若い頃は、あまり田舎には関心がありませんでした。でも、歳を重ねてくると、自然の大切さに気づかされます。村の人たちの気さくさや温かさにつつまれていくと心地いいんです。不便さだって、面白がって楽しめるようになるんですから。」福岡育ちの米倉さんは、山江村のようなほのぼのとした田舎に憧れていたそうです。沢山の人たちに心のオアシス山江村を知ってもらいたいと、自身のホームページ「山江村を遊ぼう」で紹介しています。「でも、本当は誰にも教えたくないんですよ。私だけの宝物にしておきたいというのがホンネですね。」



米倉治真さん  
福岡県福岡市在住  
二人の息子は社会人として独立し、現在はご主人と二人暮らし。  
福岡でフリーライターとして勤務後、現在はスーパーのベーカーリーコーナーでパン作り挑戦！万江川「木のふれあい館」にある石釜でパンを焼くのが夢だそうです。

八代よかところ宣伝隊

農家の暮らしをまるごと体験！



山や海そして平野部と、豊かな自然が満喫できる八代市。「八代よかところ宣伝隊」では、観光体験が豊富に用意され、茶摘みや晩白柚収穫、紙すき、蜜蝋作りなど、季節ごとに収穫作業や加工品作りが楽しめます。また、体験と農家民泊をセットにした「田舎に泊まろう」モニターツアーも実施。古民家や民宿に泊まり、農産物を使った料理を楽しみながら、農家の暮らしが体験できると好評です。モニターツアーの日程は、ホームページで確認してください。

八代よかところ宣伝隊

〒866-0831  
熊本県八代市萩原町1丁目1-1  
八代駅内  
TEL 0965-31-8200  
<http://www.yokatoko.info/>



## 豊かな水源を持つ山里の 古い木造校舎で少年の夢をかなえる

山里で暮らすことが言葉よりも強いメッセージになる



「中学生の頃から、自分の学校を造るのが夢だったんです。この古い木造校舎

って、お互いが出会いの感動を分かち合えるようにと考えています。「都会から

を見た瞬間、ここでやりたいことができると感じましたね」と話す小林さん。東京でNPO勤務を経て、2年間海外の各地を放浪。帰国後に知人を訪ねた菊池で、平成16年に旧菊池東中学校の校舎を活用したグリーンツーリズム施設「きくちふるさと水源交流館」が開設。ここを拠点に活動する「NPO法人きくち水源村」が発足し、事務局長として4年前に埼玉県から移住しました。

昭和25年に建てられた木造平屋建ての校舎には、地元の人達の暮らしの知恵や仕事を生かした体験プログラムが用意されています。例えば、季節ごとの農家の暮らしを体験する「おいしい村づくり」、地元産の食材で作られた料理、地元の人達が作った五右衛門風呂やかまどを使うキャンプなど。指導するのは地元のおじいちゃんやおばあちゃん達。訪れた人達との交流によ



小林和彦さん  
埼玉県幸手市出身  
農業法人を立ち上げ、地域が自立できる体制を作ることが今後の目標。達成した後は、ヨットで世界の海をめくりたいとか、まだまだ旅の途中にいると、少年のように話してくれました。

### 田舎暮らし まとめ

各地域の方々に会って、全ての方々に共通して言えることは、皆、イキイキしていることでした。生きがいを感じていることに間違いありません。

「つらいこともあるでしょう？」  
その間に「ここには人や自然がたくさんあり、癒してくれます。温泉だったり、自然の隠れ家だったり、全てがここに  
あるからいい。  
楽しみも、  
苦しみも多  
い分、人と  
して生きて  
いる実感が  
ある。私は、  
目的を持つ  
て熊本へ来  
ています。」  
とお答えに  
なりました。  
皆様、  
熊本で、本  
当の自分を  
見つけに来  
ませんか？



# 仕事も生き方もマイペースで続けられる 地方の街暮らしの魅力

仕事をするのも生活するのも熊本はちよつどいい街



埼玉生まれで横浜育ちの宮原さん。13年前に勤めていた会社の転勤で熊本にきました。「横浜に住んでたときには、九州も東北も、気候が違うだけでどこも同じと思っていましたが、実際に住んでみると全然違いますね。想像していた以上に都会だし、自然も豊かな街ですよ。」熊本での会社勤めは3年半で辞め、在職中からはじめていたフリーペーパーの制作に専念。現在は、フリーランスでショッ

中心に仕事をしています。「関東にいる友人に話すと、地方都市でフリーで仕事が続けられるってすごいね、と驚かれます。でも、外の視点を持ち込むことができるし、縁がないだけにしがらみもない。かえって自由に生きられる街だと感じていますね。」現在は休刊中ですが、フリーペーパーはいろいろな人の自己主張を発表する場として発行。エッセイやイラスト、写真など、今のブログのようなスタンスで、意見的な思い



宮原春樹さん  
神奈川県横浜市出身  
仕事場から眺める風景は、裏に住む大家さんの家の庭からの借景。住み心地がいい熊本ですが、「毎年6月頃になると、どこかに引っ越そうかと思う」くらい夏の蒸し暑さは苦手だと、

がつづられています。かえって東京のような大きな街で出した方がいいのではと尋ねたら、「東京だと好きな人だけしか読まない。でも、熊本は小さな街だけに作り手も読み手もいろいろな人に広がっていき可能性が高い。いろんな人に読んで欲しいというチャレンジでもあるんですよ」と力強い言葉が帰ってきました。まずは、フリーペーパーを復刊させ、みんながもつと元気になるような活動をしていきたいと話してくれました。

熊本市中心部にある一軒家を仕事場兼住まいにする宮原さん。市街地までは歩いて行ける距離で、熊本駅まで歩いて10分という立地です。「東京ではこんな便利な場所に住みません。熊本産の野菜も肉もすこくうまい。野菜は一つひとつが大きくて、土地が肥えているんですね。」熊本は、暮らすにはちょうどいい規模。阿蘇や天草からとれたての産物が供給され、それぞれの地域としっかりつながっているのも熊本の街な暮らしの魅力になっているようです。

## 熊本の魅力



ニュータウン「光の森」

### 住む夢が育つ街 光の森

熊本市の北東に位置する菊陽町に開発されたニュータウン「光の森」は、新しいお店や施設が次々に誕生し、便利で楽しい暮らしやすい街です。JR豊肥線の駅も新設され、毎日の通勤・通学をはじめ、県外への移動もスムーズです。

<http://www.hikorinomori.com/>



水前寺成徳園

### 奇跡の水・くまもとの地下水

熊本市は、古くから「水の都」とも呼ばれるように、水環境に恵まれた都市です。人口67万人以上の都市で、上水道に使う水の全てを地下水（ミネラルウォーター）でまかっているところは全国でもまれです。

<http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp>



築城から400年を迎えた熊本城

### 400年の歴史ドラマと出会う城

平成19年（2007年）に築城400年を迎えた熊本城では四季折々に様々なイベントが開催されます。平成20年4月20日からは本丸御殿も見学できます。是非、400年の歴史ドラマに出会う熊本城にお越し下さい。

<http://www.manyou-kumamoto.jp/castle/>